

相双「食」と「ふるさと」新生運動ニュース

No.7 2015年9月
福島県相双農林事務所

メニュー

- ◆「りんかつ復興の森」植樹活動実施される
- ◆相双管内排水機場の復旧状況
- ◆木戸川のサケ漁が再開します ほか

「りんかつ復興の森」植樹活動実施される（森林林業部）

第69回全国植樹祭が平成30年に本県で開催されることとなったことを記念して、平成27年8月22日、「森林・林業活性化推進福島県議会議員連盟」による植樹式が行われました。この植樹式は、南相馬市原町区雫地区の海岸防災林造成事業施行地を会場として、全国植樹祭開催の気運を喚起するとともに、東日本大震災からの一日も早い復興を祈り、実施されたものです。

植樹活動には、小松山善継会長ら同連盟の県議会議員と市内のNPO団体やスポーツ少年団などから約150名が参加し、ヤマト福祉財団・緑地創造研究会苗木プロジェクト共同企業体などから寄贈されたクロマツ苗木400本を植栽したほか、記念植樹としてハマナスの苗8本を植栽しました。参加者は、海岸防災林が震災前の姿によみがえることを願い、苗木を一本一本丁寧に植えていました。

全国植樹祭は、豊かな国土基盤である森林・緑に対する国民的理解を深めるため、昭和25年から開催されている国土緑化運動の中心的な行事です。皇族をお迎えして、県内外から多くの方々にお集まりいただき、式典行事や記念植樹が行われる予定です。



植樹（クロマツ苗）状況



植樹式参加者

相双管内排水機場の復旧状況（農村整備部）

相双管内にある34排水機場のうち、33機場が東日本大震災の地震及び津波で建屋が流失したり、排水機能が失われる等の大きな被災を受けました。

排水機場の復旧は海沿いの農地復旧に先駆けて行わなければならないことから、避難指示区域外の21機場及び避難指示区域内の1機場合わせて22機場について平成23年度に災害査定を受けました。県外派遣職員の方々の応援を得ながら応急仮復旧工事や本復旧工事を進め、平成26年度までに14機場（64%）が復旧し、一部農地で営農が再開しています。

避難指示区域内の7機場は、国直轄の災害復旧事業として平成25年度から平成30年度完了を目指し復旧工事を進めております。今後も、8機場の工事を進め、昨年度に査定を受けた1機場とあわせ、9機場の早期復旧に全力で取り組んでいきます。



①



②



③

- ①：被災直後の大戸浜排水機場（新地町）木造の建屋が流出
- ②：完成した大戸浜排水機場（新地町）鉄筋コンクリート造に建屋構造を変更
- ③：中浜田排水機場（新地町）排水樋門工事中 奥に見えるのが太平洋 釣師海岸工事と調整を行いながら施工中

木戸川のサケ漁が再開します（企画部）

檜葉町の木戸川漁協では、これまで、春にイワナ・ヤマメ、夏にアユ、そして秋になるとサケといった魚種で漁業をしてきましたが、地震、津波、原発事故により施設が被災してしまい、サケ漁などは休止していました。復旧工事が進み、サケふ化関連施設が一部完成見込みとなり、今秋から5年ぶりにサケ漁が再開します。今回のサケ漁では、採卵やふ化にも取り組む予定で、28年の春には、250万匹のサケ稚魚の放流を計画しています。

サケふ化放流事業の他にも、「サケの切り身」「いくら」「新巻鮭」「味噌漬け」の試験的な販売を予定しています。販売に際しては、現在復旧工事中の加工所内に放射性物質の測定機器を導入し安全性を確認する体制を整えています。

10月末には、木戸川を遡上するサケをぜひ見てください。また、木戸川のサケ漁は、海から近いため、コンディションの良いおいしいサケを提供できますので、ぜひご賞味ください！

（取材協力：木戸川漁協 鈴木謙太郎さん）



木戸川の様子（やな場設置予定箇所）



工事の様子（ふ化施設等）



工事の様子（事務所・加工所）

県産農林水産物の安全・安心実感ツアーを実施しました（企画部）

平成27年8月23日、県産農産物の安全性や美味しさを多くの方々に再認識していただき、県内の消費者に食べていただくことが重要となっています。このため、農林水産物の安全確保に向けた取組の見学や、地元農林水産物を用いた料理教室などをとおして、親子で楽しみながら学べる日帰りバスツアー（もやし工場見学と蕎麦を味わう相双の夏休み！バスツアー）を実施しました。

主に県北・県中地方から小学生の親子15組30名の参加があり、最初に相馬市の成田食品（株）を訪問し、もやしの生産工程、放射性物質社内検査の見学を行いました。また、もやしの生産工程で生じた排水やもやしの根などの「残さ」をリサイクルする取組についての説明を受けました。参加者からは工場の検査態勢などについての質問がありました。

次に、新地町の蕎麦畑に移動し、蕎麦農家からこれまでの蕎麦生産の体験談などを聞いた後、蕎麦製粉工程の見学を行いました。参加者は、蕎麦粉になるまでに多くの工程がある事に関心していたようでした。昼食は流し蕎麦（新地町産）を味わっていただき、「美味しい」と好評でした。さらに、昼食後には料理教室（そばがき作り）を行うなど夏の相双を満喫していただきました。



成田食品（株）の企業説明



そば粉製造工程の見学



記念撮影



福島県相双農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒975-0031 福島県南相馬市原町区錦町一丁目30番地
Tel : 0244-26-1153 Fax : 0244-26-1181
<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36260a/>
E-mail kikaku.af06@pref.fukushima.lg.jp